

「わたしをお遣わしになった方の御心」

(ヨハネによる福音書 6 : 37-51)

「あなたの神、主はあなたを良い土地に導き入れようとしておられる。」今日の申命記の言葉です。これがわたしたちの神です。良い土地とは、「不自由なくパンを食べることができ、何一つ欠けることのない」土地です。なんと素晴らしいところでしょうか。わたしたちの神は、わたしたちをそこに導き入れようとしておられるのです。このことをわたしたちに知らせるために、神は主イエスをこの世にお遣わしになりました。

「わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである。」と主イエスは言われます。今日の福音書によれば、主イエスをお遣わしになった神の御心とは、「わたしに与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させること」、「子を見て信じる者が皆、永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させること」です。難しく考える必要はありません。神はわたしたちを主イエスを通して、不自由なくパンを食べることができ、何一つ欠けることのない世界へと導いてくださる、ということです。そこでは生も死も超えて、誰もが神のもとで憩い、飢えることはありません。主イエスが来られる以前も、神は人をそこへ招き続けましたが、多くの方はそこに至る道がわかりませんでした。神はそんな人間に道を示されました。その道こそ、主イエスです。

主イエスは「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことはできない。」と言われます。主イエスは神にある真理、命がある「良い土地」へ至る道です。わたしたちは良い土地へ至る道を知っているのです。主イエスという道を知られている。この恵みを信じて歩むことがわたしたちに求められていることです。「わたしのもとに来る人を、わたしは決して追い出さない」と主イエスが言われるように、主イエスという道を歩んできたものを、神は必ず良い土地へと招いてくださいます。